

事業報告書（令和6年度）

事業名 岡山産マスカットづくりのふるさと創生事業～放置されたぶどうハウスや空き家対策～

団体名 _____ 杜の家 なかみち _____ 担当者名 鈴木健司 _____

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

毎週 その他 ぶどう畑の水やり、その他、農作業

随時運営委員や地域のボランティアで行った

例 6月1日 Kさんと運営委員でジベレリン処理や水やり

6月23日 Yさんとぶどうの葉の手入れ

6月24日 たんぽぽの会ママさん方3人にて作業～9月へ続く

年2回 研修会 お金のこと（障がい者とその家族、地域の人）

① 2024.9.7 「今、知っておきたい相続と空き家問題」

参加人数： 24人、場所：御津公民館

② 2025.3.20 予定「これから考える家のこと、お金のこと」

参加人数10名程度、場所：母谷公会堂

*インフルやコロナが流行っていたため時期が後ろにずれています

年1回 ぶどう狩り（子どもや、障がい者、地域の人たち）

2024.9.6 場所：御津農園 参加人数5名

毎月 お金の相談

毎月土曜日 or 日曜日（きらめきの開所に合わせて）場所：ねこの手みつきらめき

参加者3～4名/回

例 6/16 2家族 内容：親なき後について、発達障害に関する情報の繋がり方

7/6 1家族+きらめきに通所者と交流 内容：親なき後、今からの就労について

⇒継続的に開催中

毎月 運営委員会（勉強会を含む）

場所：岡山市北区御津町吉尾なかみち所在地にて、参加者：5～10名

委員会開催時にて1カ月程度先をめぐりに運営委員にて日程を決める

各種、空き家の調整、農家の仕事の調整

運営委員関連の農家のお手伝い 例8月24日、運営委員や当事者等で作業 etc…

きらめき関連の方に御津での空き家の再活用提案 11月3日、24日 etc…

2024年11月9日 事業の振り返り

ぶどうづくりに関して

○当事者：黒瀬さん、白倉さん、熊代姉妹、森さん、大月さん、戸田さん、西田さん、河合さんの9人

その家族：熊代さん、大月さん、戸田さん、河合さんの4人

関係者：小笠原さん、船守さん、白倉のご主人、人見悦司さんと私 5 人が主に関わっている。今も、船守さん、人見悦司さんが、温室の片付け、草刈りをしてきている。黒瀬さんは平日毎日、水やり、枯葉の片付け、剪定が 1 週間くらいかかったりと 2024 年度も継続して作業しておりました。当事者である黒瀬さんがダウンしたこともあったが、熊代さん、大月さん、河合さん、人見さんは、継続して土日で、週 1-2 回水やり、夏ごろからは、ツルの芽かぎ、房が付き始め、種の処理、間引き等行っていった。船守さんが、その都度、指導と作業。7 月～9 月ぶどうが病気になったり、枯れてしまった部分もあったが、その都度手入れしながら秋の収穫を迎えた。年間、平均すると週 2 回程度の活動。

2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

引きこもりや心の病の人が身体を動かす喜び、植物が育つことによるメンタルヘルスがリカバリーしていくことがあった。地域で住まいに困っている当事者と、空き家をマッチングさせることで、家の所有者にとっては入居者を獲得でき（空き家でなくなった）、当事者にとっては 1 人暮らしができるという可能性の気づきにつながった。また別の空きハウスや農地も放置されるのではなく人の手が入ることとなった。結果的に過疎化している御津地域へ住まいの拠点を移してきたのは 1 名であったが、その他岡山市や倉敷市に住む人が月に数回御津地域を訪れるようになり、今までなかった交流の機会や、地域の人と外部の人が農業や作業を通して関わる場が生まれた。

② どのように学び合いを取り入れたか

地域の人との交流、お互いに教わることを大切にした。運営委員やそのつながりを活かして、必要な知識や情報のマッチングを行った。具体的には、専門家と地域の人との交流や座談会、学び合いの場をなかみちの企画によってつくった。例えば農作業を通して地域の人や当事者がぶどう作りについて学んだり、当事者とのコミュニケーションの機会を地域の人が学ぶ場にもなった。講演会や情報提供も行うが、地域の人困りごと（親なき後や相続、障がい福祉について、介護など）をメインに取り上げ、学びたいものを学べる環境づくりに努めた。地域の人が普段利用する事業所や、施設での開催につとめ参加のハードルを低くした。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

地域の人と一緒になかみちの農園で農作物を作った。いろんな人と関わる交流の学びがあった。御津地域以外の岡山や倉敷の運営委員をあえて入れることによって、いろんな方面からの学びや実践が御津地域に入ってくるよう効果を期待し運営している。なお講演会で疑問が残った方などを中心に引き続き、きらめきを利用しての相談所を開いたりしている。また今年度実施した、講演内容が地域の他のコミュニティでも発信してほしいとの要望があり、なかみちとして 2025 年度コミットする予定である。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

具体的に 2 件の空き家やぶどう農園に人の手が入ることとなり空き家対策への後見ともに

当事者の方がそこでの農業に関わることで、家から出た作業をすること、その作業を通して普段関わることのなかった地域の人と関わることが出来た。中にはこの活動を通して、新たな住まいに繋がった当事者や、通っていた事業所の変化があったが、ぶどう作りに関わることでその精神的なゆれを緩和出来た方々がいた。自分に取り組むことでぶどうが育つこと、そのぶどうが他人に喜ばれるという居場所としての作業空間や、取り組む意義は当事者のみならず、ボランティアに交流として関わった地域の人にとっても同様の効果があったと考えられる。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

一定数の参加人数はあったもののそれ以上に伸びなかった。「なかみち」がこのような取り組みをしていることを知ってもらうために継続して取り組む必要があると思う。また地域外の方が、この地域にやってきて定住するためには一人一人の思いを考えたり、とりまく家族状況にも配慮しつつ行う必要がある。そして定期的にこの地域に来る方々に農作業の価値や良さをもっと知ってもらえるようにできたらと思う。また今回はかなり、赤字だった。予算的にもマンパワー的にも団体としての力をつけていかなければと感じる。今後、継続して地域の集まりを開いて人のつながりを持っていきたいと思う。

